

ALOS-2 の現状と受信機衛星群による森林観測及び DEM 作成
PALSAR Status of ALOS-2 and forest observation and DEM generation by receiver satellites

島田政信・勘角幸広・会田芳久

宇宙航空研究開発機構、地球観測研究センター、305-8505、茨城県つくば市千現2-1-1、電話：029-868-2474、ファックス：029-868-2961、shimada.masanobu@jaxa.jp

概要：ALOS-2 が ALOS 後継機の一つとして認可されたのが 2008 年の 12 月である。それ以降、JAXA は開発を順当に進めている。ALOS-2 には L-band 高性能合成開口レーダが搭載され、広帯域（85 MHz）のレーダと回帰周期 14 日の組み合わせで多くの観測可能性がある。一つの例としては、隣接軌道を用いた高分解の画像の作成がある。これは周波数合成の一つであり、更に、小型衛星を用いることでより高機能化が期待される。図 1 は、検討事例であり、ALOS-2 の後方を受信機衛星を編隊飛行させることで、画像の干渉処理はもちろんと高分解の画像化に期待できる。親衛星から同期信号を受信できれば、高精度 SAR 画像が期待できる。

2009/8/28

小型SARミッションのシステム検討(メーカ依頼)

3. 小型SAR衛星のシステムの要求(案)

<軌道配置>

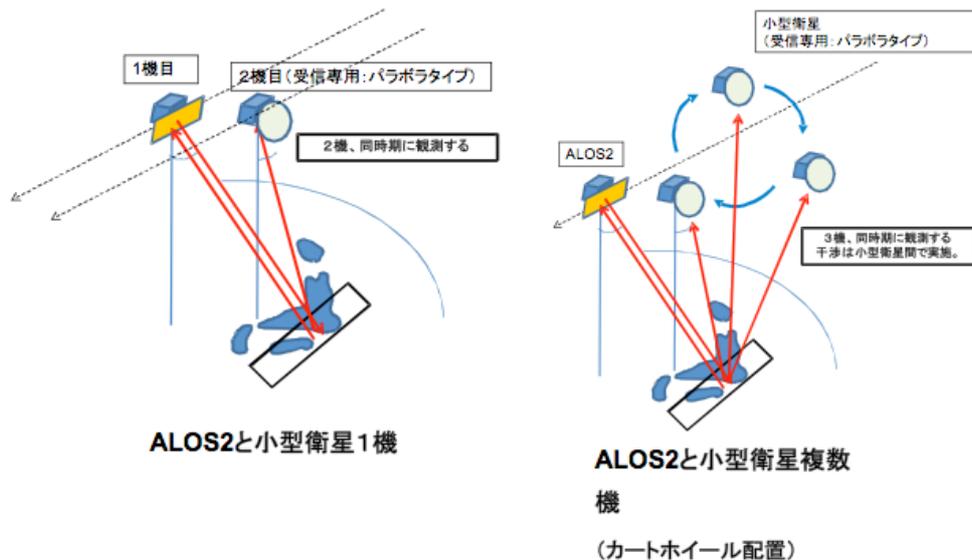


Fig. 1 ALOS-2 とあわせて検討するより機能付加について